世界子ども水フォーラムフォローアップ in 東京

Children's World Water Forum Follow Up in Tokyo

6th World Water Forum

第6回世界水フォーラム
参加活動報告

2011

世界子ども水フォーラム フォローアップ in 東京2011

●開催趣旨

世界中において、深刻な水不足、水汚染、洪水による水災害、あるいは地下水涸渇、湖沼の面積激減などの多面的水危機が現在、問題となっています。

また、2004年のスマトラ沖地震、2010年2月のチリ沖地震、そして2011年3月11日に発生した、「東日本大震災」は、津波による多くの犠牲者と被災者を出し、世界中においてますます水による深刻な問題が発生しています。

このような世界の水問題について国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として1997年より3年に一度、「世界水フォーラム」が開催されています。

2003年には、日本（京都・大阪・滋賀）で「第3回世界水フォーラム」が開催されました。その中の主要な分科会の一つとして、「第1回世界子ども水フォーラム」が開かれ、多くの日本の子どもたちが参加しました。

このとき、日本の子どもたちは、世界の子どもたちとの水に対する関わり方、認識の違いを知り、衝撃を受けました。一方、日本の子どもたちが自ら考え、行動を起こしていることを誇れることも同時に知りました。

この「世界子ども水フォーラム」の経験や情報を引き継ぎ、水に関する諸問題の解決方策の普及・啓発と子どもたちのネットワーク構築等による人材育成を目的として、日本国内で2003年より「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」を毎年開催しており、今回で9回目となります。

「世界子ども水フォーラム」は「世界水フォーラム」に合わせて、2006年に第2回大会がメキシコ・シティ（メキシコ）で、2009年に第3回大会がイスタンブール（トルコ）で開催され、いずれもこの「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」から選抜した代表者が参加し、水問題解決のための行動等について議論や発表を行い、世界各国の子どもたちと意見交換を行いました。

「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 東京2011」は、自分たちが行っている水に関する活動等に加え、今回、新ためて知った水の恐さ、水の大切さや人と水との関わり等についてお互いに議論し、考え、発表する機会を提供することにより、子どもたち自身の活動の更なる発展と、子どもたちの水に関するネットワークを構築することを目的として、開催されたものです。

さらに、今回の「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 東京2011」では、日本の子どもたちの力強さを世界中の子どもたちに発信するため、第6回の世界水フォーラム（マルセイユ、フランス）への派遣者の一次選考を行いました。

●開催概要

フォローアップin東京2011の開催目的

本大会は以下の6つの目的のもと開催されました。

①世界子ども水フォーラム及びフォローアップ大会における経験及び成果を引継ぐ。
②水に関する活動を広げていくため、自分たち子どもができることを議論する。
③子どもたちの水に関するネットワークを構築する。（同じ仲間がいることを知る。）
④次世代を担う若者たち、子どもたちを育成する。
⑤第6回世界水フォーラムで子どもたちから世界に発信できる水に関する内容を議論する。
⑥第6回世界水フォーラムに派遣する子どもたちを選抜する。

フォローアップin東京2011の開催概要

①開催日程：2011年8月2日㈫～4日㈭　2泊3日
②開催場所：独立行政法人 国立青少年教育振興機構　国立オリンピック記念青少年総合センター
③主　　催：世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2011実行委員会
④共　　催：㈶河川環境管理財団　子どもの水辺サポートセンター
⑤後　　援：文部科学省、国土交通省、環境省、全日本中学校長会、㈳ガールスカウト日本連盟、NPO法人日本水フォーラム、NPO法人自然体験活動推進協議会、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会

フォローアップin東京2011の特徴と効果

- 水に関心を持っている、さらに自ら活動している中高生を全国から募集
- 水問題に関する作文審査による選抜
- OB・OG等からなる大学生・大学院生がファシリテーター等の運営スタッフとなり、大会運営の中心的役割を担う
- 自分達自身の活動発表やグループ討議の結果を発表することによるスキルアップ
- 自分たちの活動に対する改善と他への普及に向けてのネットワークの構築

CONTENTS

【世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2011】

開催趣旨 …… 2
開催目的 …… 3
開催概要 …… 3
特徴と効果 …… 3
大会プログラム …… 4
参加者一覧 …… 5
実行委員・運営スタッフ一覧 …… 5
大会の様子
1日目/8月2日（月） …… 6
2日目/8月3日（火） …… 8
3日目/8月4日（水） …… 10
第1分科会 …… 12
第2分科会 …… 14
第3分科会 …… 16
第4分科会 …… 18
第5分科会 …… 20

【第6回世界水フォーラム参加活動報告】

概要 …… 24
第6回世界水フォーラムに向けた勉強会 …… 26
実行委員会主催壮行会 …… 27
活動レポート
1日目/3月11日（日） …… 28
2日目/3月12日（月） …… 29
3日目/3月13日（火） …… 30
4日目/3月14日（水） …… 31
5日目/3月15日（木） …… 33
6日目/3月16日（金） …… 35
はみだしPhoto …… 37
水に関する活動の発表 …… 38
子どもたちの感想 …… 43

大会プログラム

プログラム(8/2火)

12:00　受付開始
- ★分科会担当ファシリテーター等顔合わせ
- ★写真撮影

13:00　開会式
(センター棟　1F･102)
- ★開会宣言(参加者代表)
- ★開会挨拶(北野実行委員長)
- ★実行委員紹介
- ★開催趣旨説明
- ★記念撮影

13:40　オリエンテーション
(1F･102)
- ★スケジュール説明
- ★本大会の注意事項
- ★館内利用説明
- ★全スタッフ紹介

14:00　アイスブレイク
(1F･102)
- ★名刺交換会
- ★アクティビティ　など

15:00　移動
- ★宿泊棟へ移動

16:00　グループ討議(1)
(2時間)
- (5分科会にグループ分け)
- ★自己紹介レポート発表

18:00　夕食(食堂)
- ★各グループで食事

19:00　グループ討議(2)
(2時間30分)
- ★各グループでのWS

21:30　入浴
- ★各グループで入浴

22:30　就寝

プログラム(8/3水)

6:30　起床

7:00　朝食(食堂)

8:00　移動･体験活動
- ★本日のスケジュール確認
- ★水に関する体験活動等
- (東京海洋大学･越中島キャンパス)

12:00　昼食･移動

14:00　グループ討議(3)
(2時間)
- ★各グループでのWS

16:00　参加者全員発表会
(センター棟102)
- ★個々の活動や大会参加の印象を発表すること及び参加者全員の交流

17:00　グループ討議(4)
(5時間)
- ★各グループでのWS
- ★各グループで食事
- ★各グループ発表準備
- ★各グループ成果取りまとめ

21:30　入浴
- ★各グループで入浴

22:30　就寝

プログラム(8/4木)

6:30　起床

7:00　朝食・後片付け等退所準備

8:30　移動

9:00　全体発表会
(国際交流棟:レセプションホール)
- ★各グループの発表
- ★意見交換
- ★マルセイユ派遣候補者投票

11:30　さよなら交流会
- ★さよなら交流会(立食)

13:00　閉会式
(国際交流棟:レセプションホール)
- ★マルセイユ派遣候補者発表
- ★講評(実行委員)
- ★閉会宣言(参加者代表)
- ★閉会挨拶(実行委員)
- ★記念撮影

14:00　解散
(レセプションホール)

参 加 者

県　別	名　前	性別	学年
北海道	作道　奏太	男	高３
青森県	山田 菜々子	女	高３
青森県	安ケ平 瑞希	女	高１
茨城県	古木　　茜	女	高２
東京都	藤丸　莉咲	女	中２
東京都	淺川　麗香	女	中３
神奈川県	小林 夕里子	女	中２
神奈川県	米塚　友理	女	中３
神奈川県	金子　英司	男	高１
岐阜県	三輪　圭吾	男	高３
愛知県	田中　美穂	女	中３
愛知県	伊藤　健人	男	高２
滋賀県	山下 竣一朗	男	高２
大阪府	是國　明星	女	中３
大阪府	中河　由衣	女	高１
兵庫県	松崎　理恵	女	高１
兵庫県	岩橋　祐太	男	高２
広島県	河野　新大	男	中２
広島県	田邉　和正	男	中３
広島県	重政　祐貴	男	中３
山口県	石光　七彩	女	中２
山口県	吉野　智美	女	高２
愛媛県	橋梅　光春	男	高１
愛媛県	川中　寅生	男	高３
福岡県	仲野 健太郎	男	高１
福岡県	曽根　裕子	女	高３
熊本県	森本 優貴美	女	中２
鹿児島県	中富 七夕乃	女	中２
鹿児島県	久留須 那々瀬	女	中３
鹿児島県	兒島 明日花	女	中３
沖縄県	池城 ひかり	女	高３
沖縄県	新里　修平	男	高３

実行委員・運営スタッフ等一覧

役　割	氏　名	性別	所　属
実行委員長	北野　　大	男	明治大学 理工学部 教授
実行委員	竹下　珠路	女	㈳ガールスカウト日本連盟 常任理事
実行委員	大江　　近	男	全日本中学校長会 会長
実行委員	沖　　大幹	男	東京大学 生産技術研究所　教授
実行委員	吉冨　友恭	男	東京学芸大学 環境教育研究センター 准教授
実行委員	小池　　剛	男	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長
実行委員	藤兼　雅和	男	㈶河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター長
講習会講師	根上　　明	男	玉川大学 非常勤講師
講習会講師	斉藤　　隆	男	NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長
体験活動講師	高橋　克佳	男	栃木カヤックセンター
体験活動講師	池田　　亮	男	栃木カヤックセンター
体験活動講師	中原　優人	男	NPO 法人鶴見川流域ネットワーキング
ファシリテーター	佐藤　裕基	男	第一分科会
ファシリテーター	川崎　　翼	男	第二分科会
ファシリテーター	湯谷　啓明	男	第三分科会
ファシリテーター	安藤　達哉	男	第四分科会
ファシリテーター	荒川　桃子	女	第五分科会
記録係	斗内　綾美	女	第一分科会
記録係	仲野　美穂	女	第二分科会
記録係	長瀬　雄貴	男	第三分科会
記録係	齊藤　詠子	女	第四分科会
記録係	新國　宏樹	男	第五分科会
事務局スタッフ	佐々木 和也	男	事務局スタッフ
事務局スタッフ	早田　亜希	女	事務局スタッフ
財団アシスタント	池田　幸子	女	財団アシスタント
財団アシスタント	津谷　瑛里	女	財団アシスタント
事務局	吉野　英夫	男	㈶河川環境管理財団 研究第一部次長
事務局	花田 須磨子	女	㈶河川環境管理財団 研究第一部
事務局	鳥越　洋生	男	㈶河川環境管理財団 研究第一部
事務局	菅原　一成	男	㈶河川環境管理財団 研究第一部
事務局	山本　嘉昭	男	㈶河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
事務局	橋本　仁美	女	㈶河川環境管理財団 研究第一部
事務局	軍司 江美子	女	㈶河川環境管理財団 研究第二部

1日目 大会の様子

2011.8.2 (火)

【開会式】13：00～

開会式は、まず地元東京から参加した藤丸莉咲さん（渋谷区立上原中学校２年）による、「私たちは、人や動植物が生きていくために欠かすことのできない水について、自ら調べ、考え、学ぶためにここに集まりました。今日からの3日間、みんなと一緒に、水について話し合い、そして、様々な水問題の解決に向け、事前学習などで学んだことを充分に発揮し、いま、私たちができるよりよいものを見つけていきたいです。また、私たち自身の活動の更なる発展へとつなげて行くとともに全国から集まった仲間とのネットワークも広めて行きたいと思います。」と、力強く堂々とした開会宣言で始まりました。

続いて北野実行委員長から「『水』とは３つの価値があります。一つ目は『資源』。他の資源と違って代替不可能で生物生存の基盤でもあります。２つ目は『精神的な価値』。方丈記で『水の流れを見ながら人生をみる』と記されています。そして３つ目は『社会的な価値』。川の上流・下流との交流です。最終目標マルセイユは二の次で、北から南まで全国の子どもと寝食を共にし、仲良くなって知識を深めることが第一にあります。２泊３日の後には全員の名前を覚えて、大会後も交流を深め末永く繋がっていって、輪を広げて行ってください」と開会挨拶を頂きました。

開会式に引き続き、運営スタッフにより、３日間の共通ルールが説明されました。その後参加者同士が交流し、緊張をほぐすために運営スタッフ、実行委員も加わりアイスブレイクを行いました。

【アイスブレイク】14：00～

アイスブレイクの内容は、「ぱちぱちインパルス」、「むぎゅ」、「バナナ鬼」や「締めの儀式」など行い、その合間に名刺交換や自己紹介も取り込みました。みんなの緊張が徐々にほぐれ、一体感が生まれました。

【分科会】16：00～

アイスブレイクの後、いよいよ分科会に分かれて話し合いが始まりました。各分科会には、記録係、ファシリテーターが1名ずつついて、話し合いをサポートしました。今回は5つの分科会にわかれ、分科会のテーマごとに話し合いが行われました。分科会では、事前学習レポートの発表や、活動の紹介、3日目の全体発表会にむけた資料作りなどが行われました。

2日目 大会の様子

2011.8.3（水）

【体験活動】8：00～

今回の体験活動は、東京海洋大学・越中島キャンパスでのEボート体験でした。はじめに高橋克佳講師より、安全な体験活動の進め方、Eボートの取り扱いについて説明があり、その後、実際にEボートの組み立てに取りかかりました。実際の組み立てやライフジャケットの着用が初めての参加者も多かったのですが、スタッフのサポートのもと、テキパキと準備を進めていました。照りつける太陽の下、暑さと慣れないパドル漕ぎでしたが、少しずつコツをつかんでいった様子でした。最後には、ボート同士で競争してゴールしたチームもあり、参加者の顔には、笑顔が浮かんでいました。Eボート体験活動中は晴天に恵まれ、汗をかいた後には涼しい風も感じることができました。

【参加者全員発表会】16：00～

参加者全員発表会では、参加者個人の活動紹介と、「ウィッシュポエム」というアクティビティを行いました。参加者個人の活動紹介では、参加者全員で円をつくり、全員が座って聞く中、一人ずつ立って自分の活動について30～40秒間発表していきました。名前、ニックネーム、出身、どんな活動をどんな意識でやっているのかを真剣な表情で発表していました。

「ウィッシュポエム」では、私たちの水辺「〇〇あったらいいな」をテーマにして、個人の理想の水辺をグループでつなぎ合わせて「水辺物語」をつくりました。発表では生き物がたくさんいる川や、楽しみながらも安心できる水辺など自由な意見がたくさんでました。

発表方法も工夫しながらグループ独自の面白さを盛り込んだポエムができました。

3日目 大会の様子

2011.8.4 (木)

【全体発表会】9：00～

全体発表会では、２日間で分科会で話し合った内容についてすべての参加者、スタッフの前で分科会ごとに発表します。発表順は、２日目の体験活動の際に、ファシリテーターによるじゃんけんで決まりました。自分たちの活動の様子や共通点、分科会で話し合った理想の川について、寸劇形式や、クイズ形式で発表するなど、表現力豊かで、独創的な発表会となりました。また、各分科会の発表の後には、実行委員の方々からコメントをいただきました。参加者にとっては、限られた時間内で効果的に伝えるという、難しくも楽しいひと時であったようです。

【閉会式】13：00～

閉会式では大江実行委員からマルセイユ派遣候補者の発表があり、派遣候補者の６名全員には抱負を語ってもらいました。次に今回、最も遠方から参加されている作道奏太さん、池城ひかりさん、新里修平太さんから閉会宣言をいただきました。続いて、運営スタッフから参加者へ挨拶があり、感極まって涙するスタッフもいました。

【マルセイユ派遣候補者】

各分科会の発表後に実行委員から子ども達まで参加者全員で、マルセイユへの派遣候補者選抜のための投票を行い、６名が選ばれました。

NO.	県　別	名　前	性別	学年
1	北海道	**作道　奏太**（つくりみち そうた）	男	高３
2	神奈川県	**小林　夕里子**（こばやし ゆりこ）	女	中２
3	愛知県	**田中　美穂**（たなか みほ）	女	中３
4	兵庫県	**松崎　理恵**（まつざき りえ）	女	高１
5	広島県	**重政　祐貴**（しげまさ ゆうき）	男	中３
6	福岡県	**仲野　健太郎**（なかの けんたろう）	男	高１

■事務局スタッフのコメント

●早田　亜希（事務局スタッフ）

私は去年まで参加者側で、去年の終わりにスタッフになりたいと思って本当にスタッフになることができました。最初は名前を覚えてもらえるかな、と不安に思っていましたが、みんなと仲良くなれてうれしかったです。来年も参加したいと思っているので、みんなと来年も会えるといいな、と思っています。地元に帰ってがんばりましょう。

●佐々木　和也（事務局スタッフ）

本当に参加者ひとりひとりに感謝しています。ひとつだけお願いがあります。参加者のみんなと握手して終わりたいと思います。

■財団アシスタントのコメント

●津谷　瑛里（財団アシスタント）

それぞれの分科会の背中を後ろから見ていて、分科会ごとにファシリテーターと記録係と参加者でチームになっていく様子がいいなあと思っていました。ここで築いたご縁を、ぜひこれからもつなげていってほしいと思います。

●池田　幸子（財団アシスタント）

今までは毎年ファシリテーターをしていたのですが、今年はじめて財団アシスタントをやりました。毎年毎年、その年にしかないメンバーとスタッフでつくっていく大会が大好きです。今年のスタッフのみんなに嫉妬するくらいうらやましくて、楽しそうで、いいなあと思っていました。ありがとうございました。

第1分科会

水による災害（洪水や津波、土砂災害等）

水害に対して取組んでいること

■発表の概要

災害の例を「村の災害」として取り上げ、災害に備えていた村、そうでなかった村の違いを比較して発表しました。水の災害に備えることの重要性、災害への備えを集団で行うことの重要性を盛り込んだものでした。一人でできることは少なく、みんなで（他人と協力して）行うことで、より効果的な防災ができるということを発表しました。

北野委員長

竹下委員

■実行委員コメント

●自助、公助、共助を楽しく伝えることができたのはよかったです。
自分の地域に帰っても楽しく伝える工夫を続けていってほしいです。

●災害の怖さを楽しく伝えることができるのはよかったです。
地域の避難訓練に、できるだけ多くの人を巻き込んでいく必要を強く感じました。

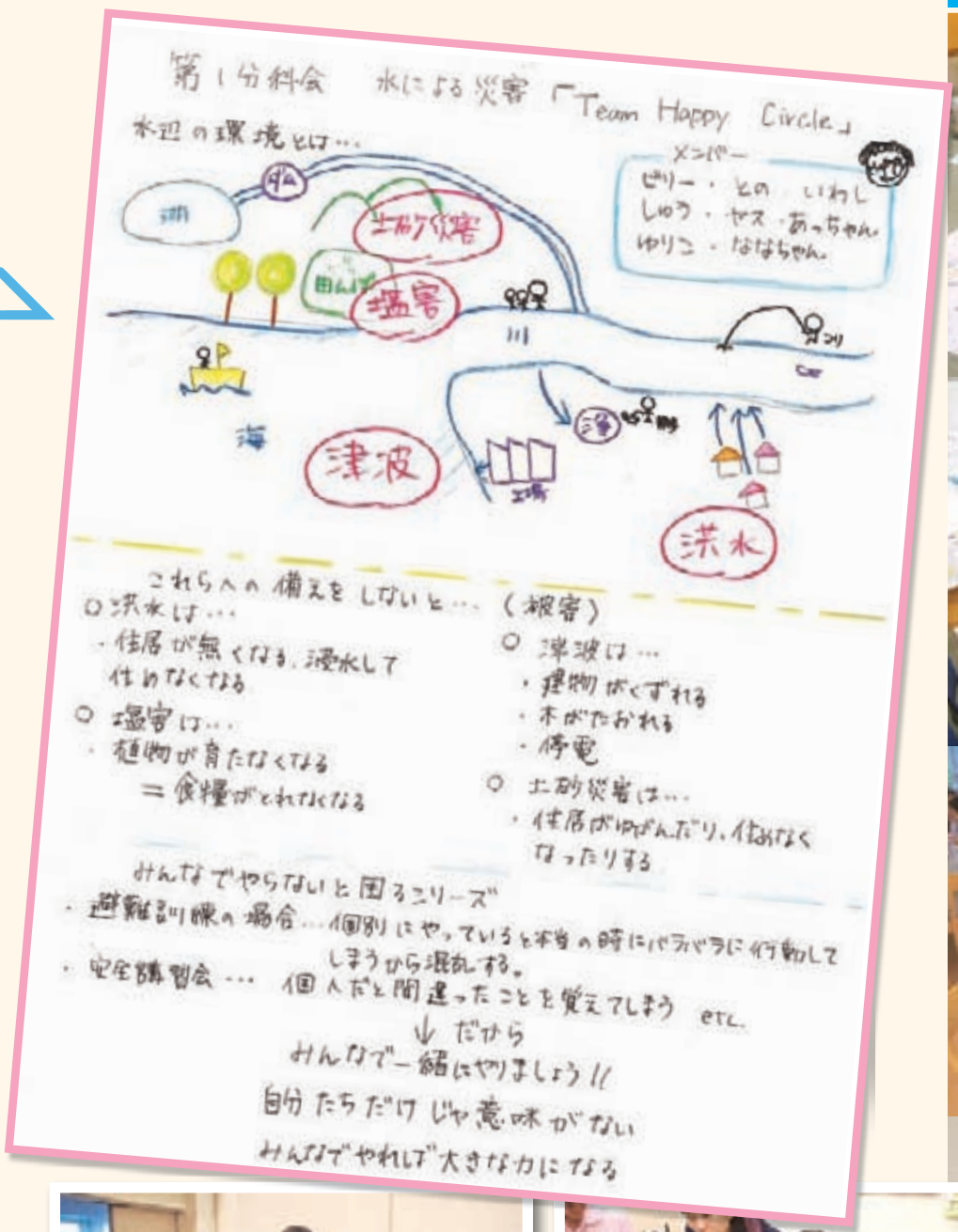
●. ファシリテーター・記録係のコメント

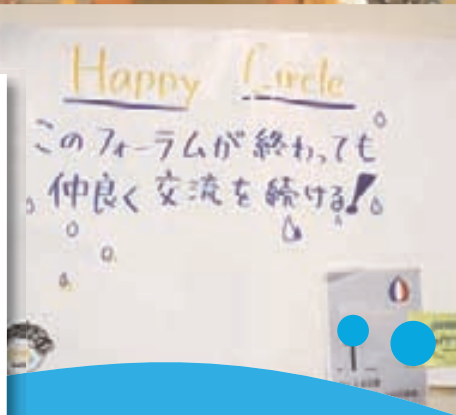
（ファシリテーター）
佐藤　裕基

（記録係）
斗内　綾美

●僕がこのフォーラムに始めて参加したのは高校３年生のときで、そのときに知り合った友達は、今でも交流が続いています。不思議なもので、ここで出会った友達は半年たっても２年たっても距離が離れた気がしなくて、どこかで会えるような、どこかで心のつながりがあるような気がします。ここにいるスタッフも１年ぶりに会うのですが、いつも１週間ぶりで会うような気がしています。みんなも大会が終わったあとも仲良く交流を続けながら、地元に帰っても環境活動をがんばってください。　＜佐藤　裕基＞

●初めての参加でしたが、こんなに楽しんでいいのかと思うくらい笑うことができました。分科会だけでなく会場全体で楽しいねと言い合える雰囲気をつくれたのは、ここにいるみんなのおかげだと思います。帰ったら、どんな小さいことでもいいのでこの大会で「できた」ことを、ノートに書き出してみてください。１年後に見たときに、あのときこれができたなら、今度はもっとできるんじゃないか、と思えるようなノートを作ったら、もっと今後に生かせると思います。３日間ありがとうございました。　＜斗内　綾美＞





メンバーズ

安ケ平　瑞希　青森県　高1

小林　夕里子　神奈川県　中2

岩橋　祐太　兵庫県　高2

石光　七彩　山口県　中2

兒島　明日花　鹿児島県　中3

新里　修平　沖縄県　高3

第2分科会

川での体験活動

安全な川での体験活動について取り組んでいること

■発表の概要

安全な川での体験活動について、２日目のEボート体験活動をもとに、「恐さ」、「楽しむ」、「景色」、「協力・達成」、「感動・発見」、「安全」の６つの相互関係を図にして発表しました。また、安全とは「安心」、「共に生きる」、「環境」の３つの要素から成り立つことを説明し、最後には「楽しさ」につながることを、ポスター形式で示しました。

吉冨委員

大江委員

■実行委員コメント

●安全について伝えようとするために「調べたこと」ではなく、「実際に自分が体験したこと」に基づいて説明したことで、説得力がありました。また津波などを経験したことがない人に経験者がどのように投げかけるかを更に考えるとよいでしょう。

●発表者の表情がとてもよかったです。さらに聴衆がわかりやすいように説明する工夫があると、より伝わりやすい発表になるでしょう。

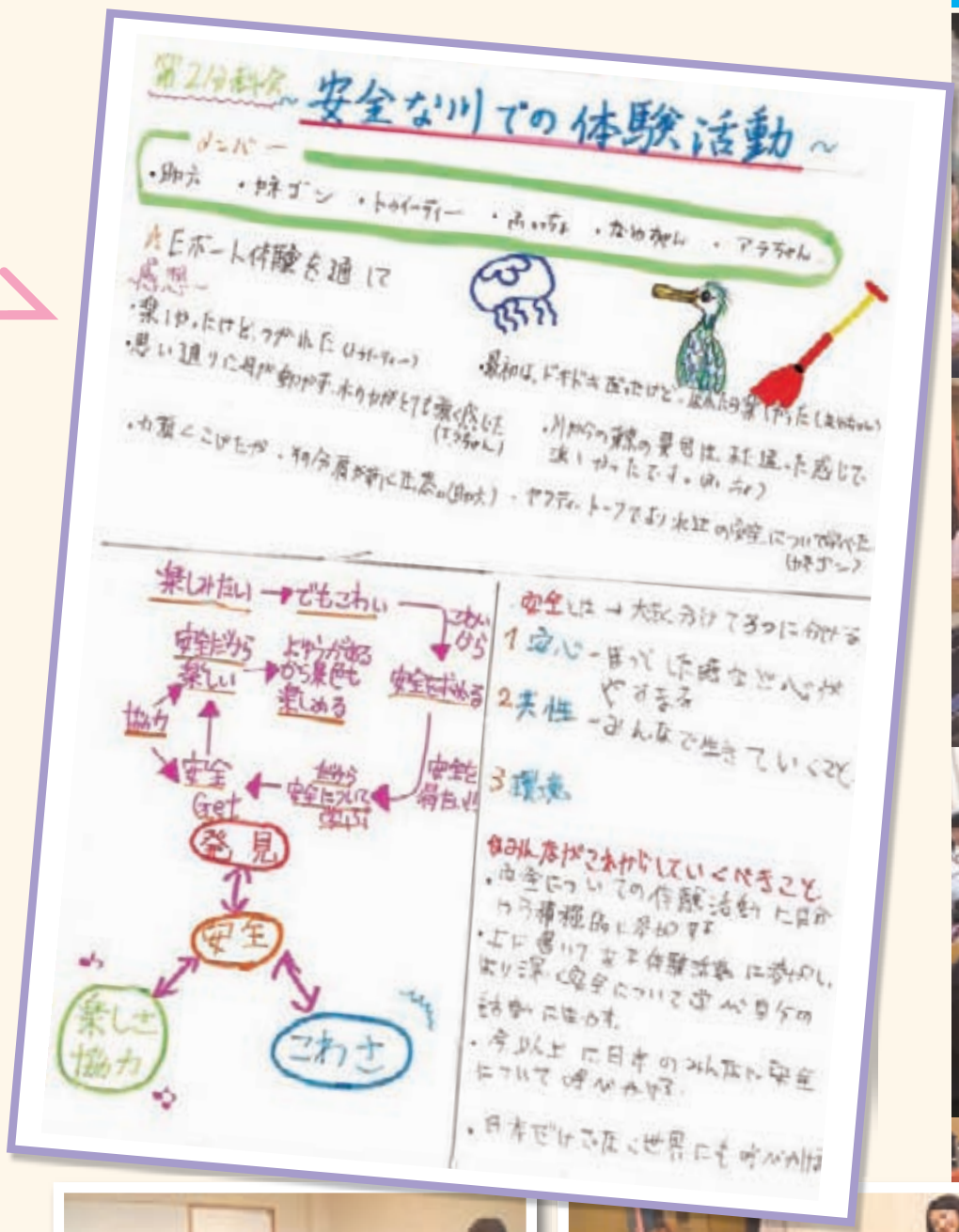
●. ファシリテーター・記録係のコメント

（ファシリテーター）
川崎　翼

（記録係）
仲野　美穂

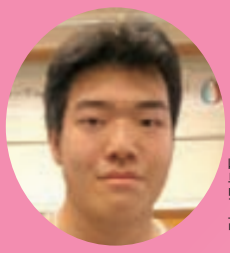
●「ほんまにありがとう」と言いたい気持ちと充実感でいっぱいです。スタッフ同士もかなりつながることができて、すごくいい気持ちです。今年の参加者も、ぜひ今後スタッフをやってみてください。日に日に分科会が打ち解けて、笑顔が増えていくのを見るのはとても楽しかったです。ありがとうございました。　＜川崎　翼＞

●スタッフとしては初めての参加で、いろいろ至らないところが多くて申し訳ないのですが、みなさんからいろんな刺激を受けることができ、本当によかったです。みなさんはこれから全国に帰っていきますが、活動する中で困難にぶつかったとき、全国にこんなに心強い仲間がいることを忘れずにいてください。3日間の濃い経験は、ほかの人には絶対にわからない、自分だけの財産になります。事務局スタッフのみなさんをはじめ、色々な方の助けがあってできたこの経験を胸に、これからもがんばってください。
＜仲野　美穂＞



メンバーズ

金子 英司
神奈川県 高1

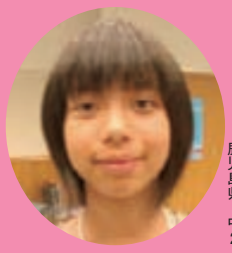


三輪 圭吾
岐阜県 高3

田中 美穂
愛知県 中3

河野 新大
広島県 中2

久留須 那々瀬
鹿児島県 中3



中富 七夕乃
鹿児島県 中2

第3分科会

水と自然環境の保全・復元・再生

水環境や自然環境の保全・復元・再生するために取組んでいること

■ 発表の概要

それぞれの活動（ガールスカウトや地元での活動や学校での活動）の紹介や、その中で得た成果、活動の契機を盛り込んでクイズ形式の発表にしました。

「理想の川」については、人間にとっての理想と他の生物にとっての理想は別なので、生活排水に気をつけるなどバランスが重要であることを発表しました。

小池委員

沖委員

■ 実行委員コメント

●分かりやすいクイズ形式でしたが、話しかけるような説明があると、より理解が深まったと思います。また発表内容については、石鹸を使わない工夫をするのもよいでしょう。

●直接取り組める現実に基づいた発表でした。工夫を取り入れた身近な発表がとてもよかったです。

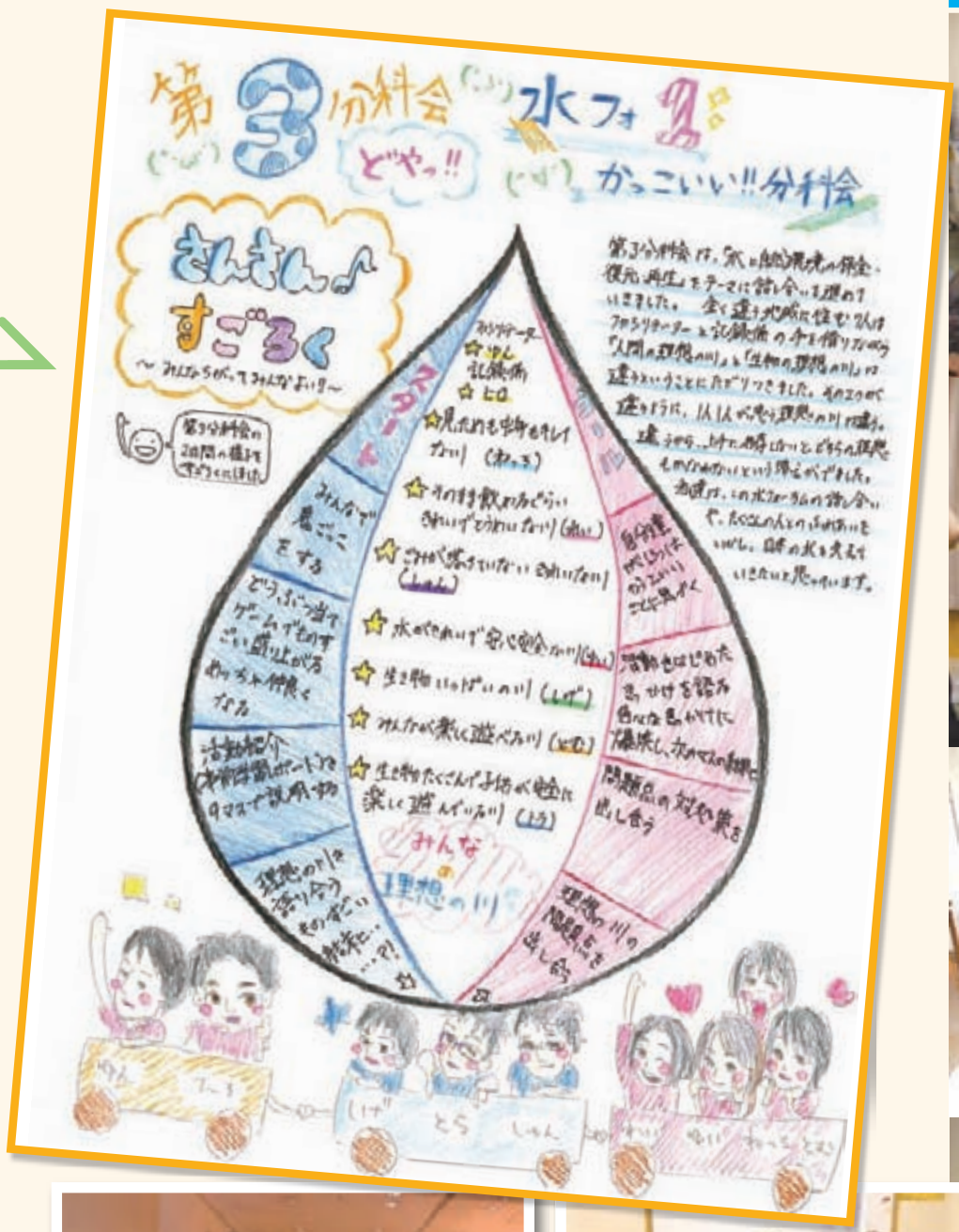
●. ファシリテーター・記録係のコメント

（ファシリテーター）
湯谷　啓明

（記録係）
長瀬　雄貴

●今回僕は４年目で最後の参加でしたが、今年が一番楽しかったです。自分に言い聞かせる意味でも言いたいのは、ひとりになる勇気を持ってください、ということ。今ここではみんなで盛り上がっているけれど、地元に帰ったらみんなはひとりになるかもしれません。地元で一緒に活動している仲間がいても、家に帰ったらひとりです。でもひとりでいることは全然辛くなくて、だってこんなにたくさん仲間がいて、同じ空の下、どこかでまた誰かもひとりでがんばっているのです。ひとりになる勇気を持って、このつながりを保ったまま地元でがんばりましょう。僕もひとりでがんばるので、またどこかで会いましょう。　＜湯谷　啓明＞

●初めての参加で僕も最初はどうしたらいいか分からず、みんなと同じ気持ちでした。でも、壁にぶつかって悩むだけじゃなくて、そこで苦しんではじめてみんなでやることの意味が見つかります。僕自身も同じですが、自分が抱えている問題で悩むのではなく、ひとりでできることには限りがあるけど、みんなで考えて発表することにはとても意味があると分かりました。こうやってみんなでつながって、若い世代から一緒に日本を変えよう、という大きい夢を掲げてもいいと思っています。これからもよろしくお願いします。　＜長瀬　雄貴＞



メンバーズ

古木 茜
茨城県 高2

淺川 麗香
東京都 中3

山下 竣一朗
滋賀県 高2

中河 由衣
大阪府 高1

重政 祐貴
広島県 中3

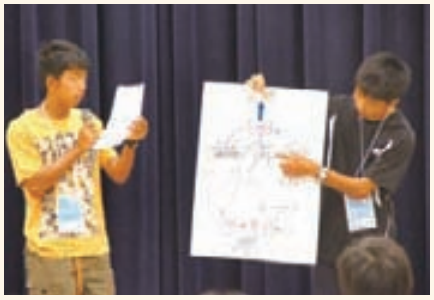
吉野 智美
山口県 高2

川中 寅生
愛媛県 高3

第4分科会

生活や産業に必要な水

日本における日々の生活（暮らし、産業）において必要な水について思うこと、取り組んでいること



■発表の概要

第４分科会は、「もし水がなくなったらどうなるか？」について「生活編」と「産業編」の２つに分けて演劇で伝えました。さらに「なぜ水への興味・関心がないのか」、「なぜ水への興味・関心を意識するべきなのか」を示しながら発表しました。

藤兼委員

北野委員長

■実行委員コメント

- 「水がなくなったら」の場面設定がよかったです。さらに、水の質と量の関係にも注目してみてください。
- 「興味を持ってもらうためにはどうすれば良いのか」について、伝える世代、手段を具体的に考えてみると、もっとよい発表になったと思います。

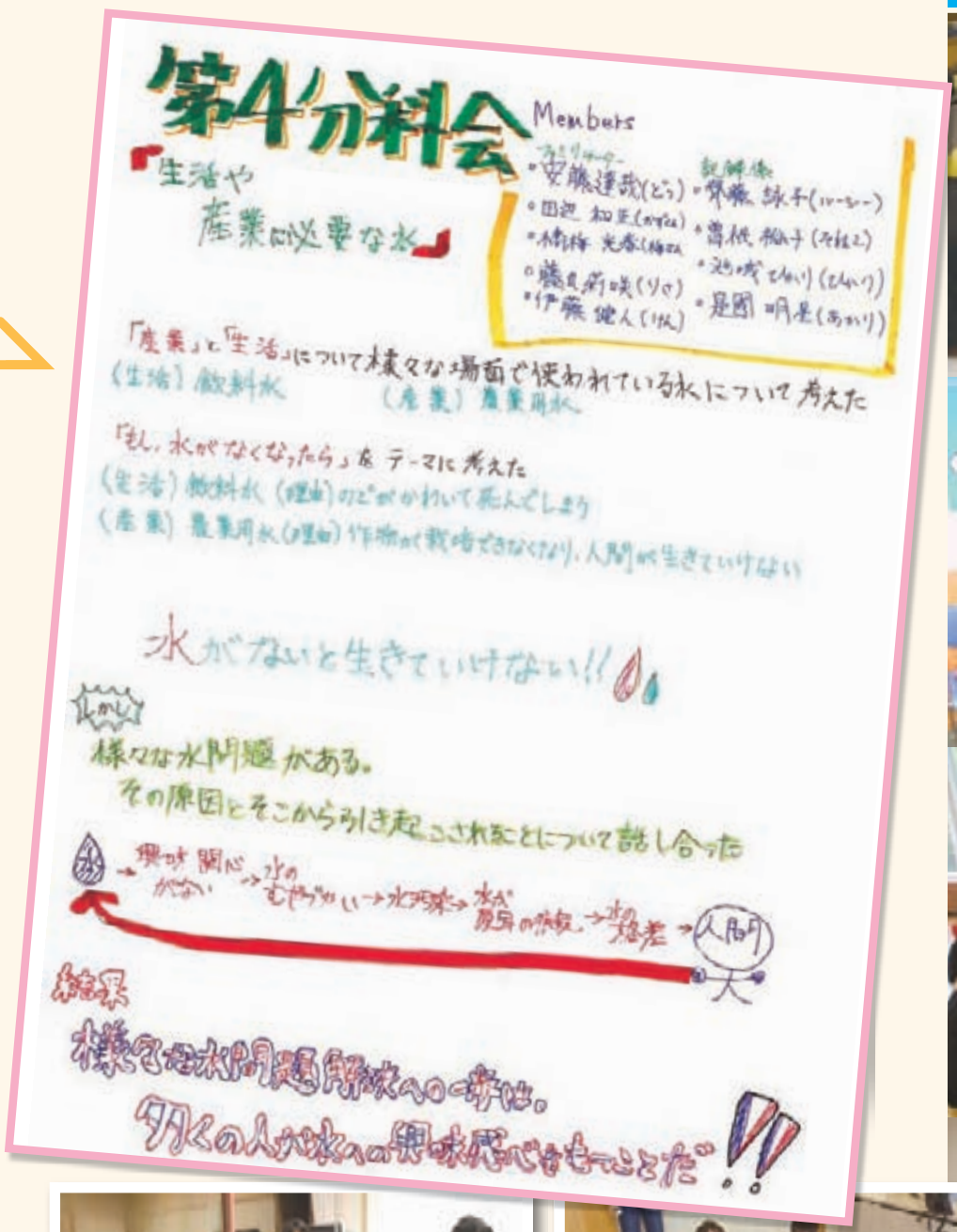
●ファシリテーター・記録係のコメント

（ファシリテーター）
安藤　達哉

（記録係）
齋藤　詠子

●本当にみんなをうらやましいと思っています。僕は中学、高校時代、こんなに刺激の受けられる大会があることを知りませんでした。今回学んだことを今後どう生かしていくかはみんな次第です。でも、一生懸命ものを考え、初めての友だちと仲良くなり、そんなスキルを持った中高生になれたのです。みんなにはたくさん時間があるので、これからもどんどん新しいことにチャレンジして、自分の可能性を広げ、それを活動の場で伝えていってください。みんななら できるはず。がんばってください。３日間ありがとうございました。　＜安藤　達哉＞

●今回私は初めて記録係として参加したので、気持ちは参加者のみんなと同じでした。各分科会の発表の準備を見たときに、それぞれが共通の目標に向かって様々な意見を出してるんだな、という印象を受けました。それは、みんなが大会の前にそれぞれ活動をがんばってきたからこそ、こんなにいろんな意見を自然に出せているのだと思います。私も10月に船舶実習があるので、この経験で得たことを大切にして、がんばって船に乗ってきます。できれば来年もスタッフとして参加したいと思っています。本当にお世話になりました。　＜齋藤　詠子＞



メンバーズ

藤丸 莉咲
東京都 中2

伊藤 健人
愛知県 高2

是國 明星
大阪府 中3

田邉 和正
広島県 中3

橋梅 光春
愛媛県 高1

曽根 裕子
福岡県 高3

池城 ひかり
沖縄県 高3

第5分科会

水の歴史や文化

日本における水の歴史や文化について、伝えたいこと

■ 発表の概要

演劇形式で「守り・広めるために必要なこと」を発表しました。

過去にタイムスリップして、アイヌの人々の生活や儀式、川の神への敬意、自然と共存して水に感謝していた様子などを紹介していました。貴重な資源を未来のために残していた生活が、現代ではムダ使いして食べきれない量の魚を釣る生活に変化した様子など、過去と現代を対比しながら表現していました。

沖委員

竹下委員

■ 実行委員コメント

●楽しい“しかけ”をして水について考えていたところがよかったです。

●とても立派な発表でした。水の文化・文明には川または海がかかわっています。人工的に作られたものではなく、人々が生活の中で、水に対する畏敬の念を持ち、文化として発展していったということをもう一度考え直してみてください。

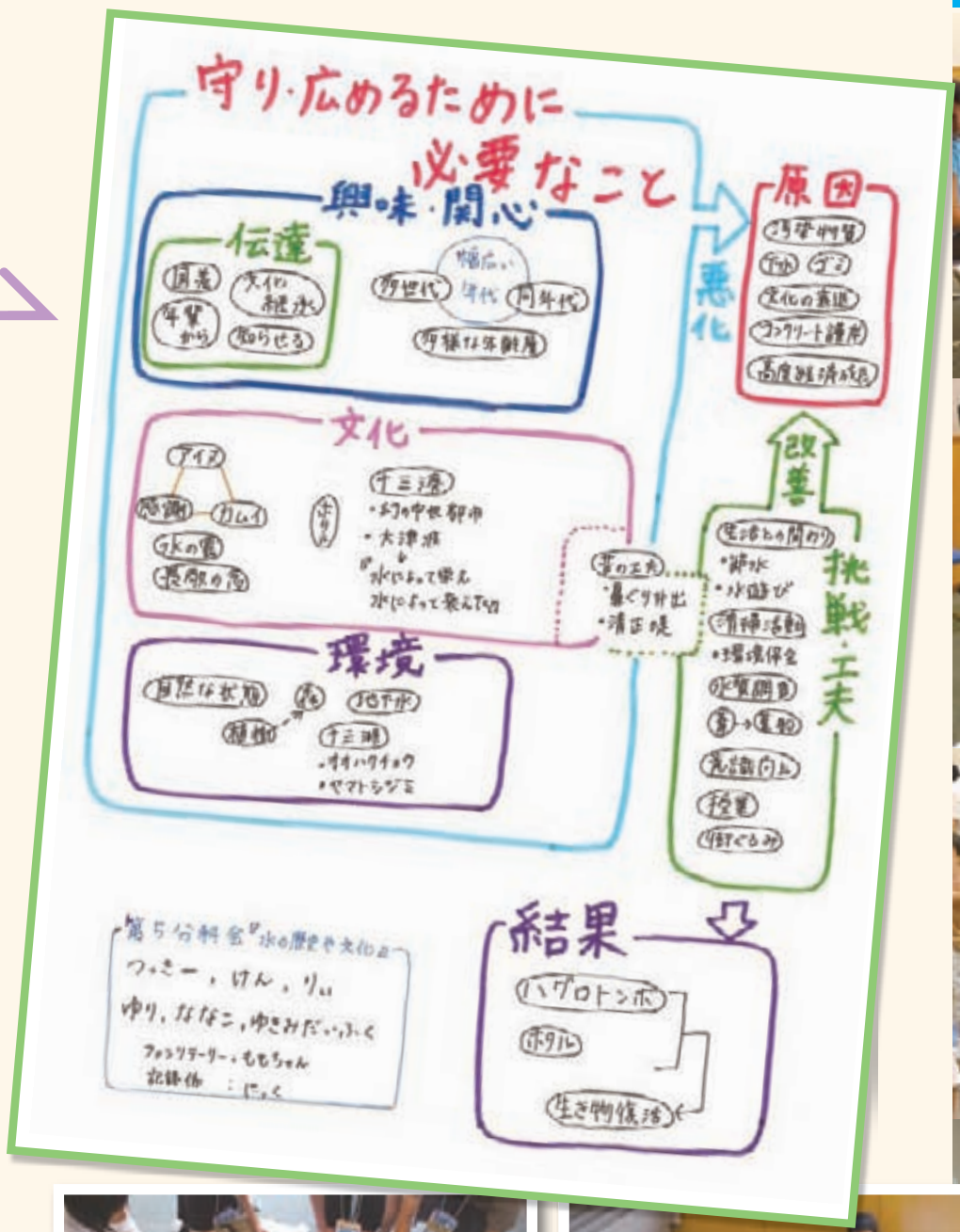
●. ファシリテーター・記録係のコメント

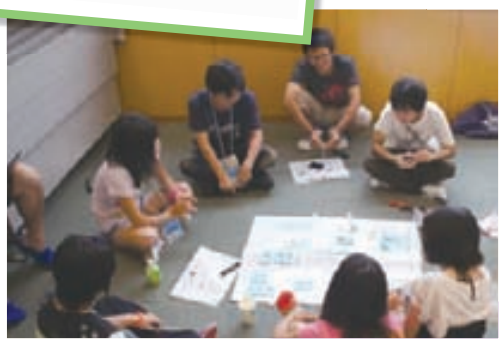
（ファシリテーター）
荒川　桃子

（記録係）
新國　宏樹

●初めてのファシリテーターでしたが、参加者のみんなに助けられることのほうが多くて、お礼を言いたい気持ちでいっぱいです。ここで出会った人たちは、今後５年、10年付き合っていける本当に大切な仲間だと思うので、この大会でできた仲間や友達を大事にして、どんどんみんなの輪を広げていってください。３日間本当にありがとうございました。
＜荒川　桃子＞

●参加する前は、みんなの活発な議論が進むようにサポートしようと思っていました。実際に議論が始まると、みんな自身で一生懸命話を進めようとしていて、たった３日間でぐいっと成長していく過程が見え、自分もとても勉強になりました。みんなの活動内容や想いを聞いてモチベーションがあがったので、自分も負けないようにがんばって活動し、いい水環境をつくっていきたいと強く思っています。３日間ありがとうございました。
＜新國　宏樹＞





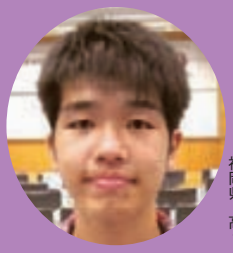
メンバーズ

作道　奏太　北海道　高3

山田　菜々子　青森県　高3

米塚　友理　神奈川県　中3

松崎　理恵　兵庫県　高1



仲野　健太郎　福岡県　高1

森本　優貴美　熊本県　中2

東京大会でお世話になった人たち

RAC事務局長
斉藤　隆氏

東京海洋大学
田村　祐司先生

栃木カヤックセンター
高橋　克佳氏

栃木カヤックセンター
池田　亮氏

玉川大学・非常勤講師
根上　明氏

鶴見川流域ネットワーキング
中原　優人氏

勝どきマリーナ
本橋　弘康氏

勝どきマリーナ
渡邊　健太氏

6th World Water Forum

第６回世界水フォーラム参加活動報告

2012.03.12-17

1. 概　要

第６回世界水フォーラム（2012年３月フランス共和国マルセイユにて開催）
（6th World Water Forum：以下「WWF6」と言う）が開催されました。

1 開催期間（参加イベント含む）

- 2012年３月12日㈪～17日㈯

2 主　催

- 第６回世界水フォーラム事務局、フランス外務省・環境省、マルセイユ市

3 場　所

- パルク・シャノ（PARC CHANOT）国際会議場（フランス共和国マルセイユ）

4 大会全体のテーマ

- “Time For Solutions”―水問題解決のとき―

5 実施項目

1. 2011年夏に全国の仲間と議論した水問題の解決策についてプレゼン
2. 世界水フォーラムの各セッションへの参加
3. 欧州の水に関する歴史的構造物を視察等
4. 水と文化・子どもワークショップに参加しフランスの子どもたちと交流
5. 水に関する施設見学（エクスカーション）

6 スケジュール

	午　前	午　後	夕　方
3/12月	世界水フォーラム開会式への参加	ユースのセッションに参加	国交省審議官を表敬訪問
13火	マルセイユ市の下水処理場施設を視察	水教育セッションに参加（韓国水フォーラム主催）	
14水	日本パビリオンで発表	水と文化・子どもワークショップに参加	
15木	Children Solutions! で発表【公式セッション】		
16金	欧州の水に関する歴史的構造物を視察		
17土	（閉会式）	移　動	

7 フォーラム参加者

●約173の国・地域　35,000名以上が参加（公式HPより）　※日本からは６名の中高生が参加

8 日本派遣団

●派遣者：６名／随行者：３名／通訳者：１名　　計10名

日本からの参加者一覧

NO.	県別	名前	ふりがな	性別	学校名	学年
1	北海道	作道　奏太	つくりみち　そうた	男	北海道函館水産高等学校	高3
2	神奈川県	小林　夕里子	こばやし　ゆりこ	女	神奈川県立平塚中等教育学校	中2
3	愛知県	田中　美穂	たなか　みほ	女	名古屋市立桜山中学校	中3
4	兵庫県	松崎　理恵	まつざき　りえ	女	兵庫県立芦屋国際中等教育学校	高1
5	広島県	重政　祐貴	しげまさ　ゆうき	男	盈進中学高等学校	中3
6	福岡県	仲野　健太郎	なかの　けんたろう	男	福岡県立東筑高等学校	高1

9 世界水フォーラムの経緯

世界子ども水フォーラムは、2003年に日本（京都・大阪・滋賀）で開催された「第３回世界水フォーラム」において第１回が開催され、世界各国の子どもたちと日本のこどもたちが交流しながら世界各地の水問題解決のための行動等についての議論や発表を行いました。

それ以来日本では毎年中高生を対象とし、大学生をファシリテーター役とした国内大会を継続、2011年夏の東京大会で第９回を数えており、これまでに403人の中高生、116人の大学生が参加しました。

また日本からは、2006年第２回メキシコ（メキシコシティ）には7名の、2009年第３回トルコ（イスタンブール）には６名の中高生を派遣しました。

今回の世界水フォーラムでは「世界子ども水フォーラム」は開催されませんでしたが、３月15日に公式セッション「Children Solution's」として日本の子どもたちが発表し、参加者と議論しました。

10 参加者の選出について

参加する６名は全国の中高生59名の作文応募の中から、昨年８月に行われた「世界水フォーラム・フォローアップin東京2011」での投票（参加者32名から６名の派遣候補者を選出）、マルセイユに向けた勉強会を経て実行委員会（委員長：明治大学北野大教授）において選出されました。

2. 第６回世界水フォーラムに向けた勉強会

マルセイユでの発表に向け、平成23年８月に東京で開催された「世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2011」(中高生32名が参加）の場で、投票により選ばれた６名の派遣候補者による勉強会が行われました。

1 開催日

- 第１回　平成23年10月29日㈯-30日㈰
- 第２回　平成24年１月８日㈰-９日㈪
- 第３回　平成24年３月10日㈯

2 場　所

- 財団法人　河川環境管理財団　会議室

3 詳　細

1 第１回

第１回目となる勉強会では派遣候補者６名が、各自が行っている水に関する活動の発表を行い、日本から発信する内容について議論しました。

一日目にはファシリテーターの荒川桃子さんがイスタンブール大会の経験を共有するために報告しました。二日目には東京学芸大学の吉冨友恭先生に、バングラデシュの水質汚染に絡めて「魚と水環境」というテーマで講演をいただきました。

また、大学生のファシリテーターのリードのもと、５つのグループに分かれ、各グループでテーマを設定し、日本語の発表資料を作成しました。第１回の勉強会以降も、ファシリテーターの協力のもとインターネット上で発表内容の検討が行われました。

2 第２回

第２回目の勉強会では、各自英訳してきた発表資料を元に英語でのプレゼンテーションの特訓等を実施し、２名の英語講師の指導のもと、英語で発表を行う際のポイント、プレゼンテーション資料の添削、発音練習等を行い、またフランス人のMarc-Andre Fedia氏による簡単なフランス語講座とマルセイユの情報について説明をいただきました。二日目には東京大学の沖大幹先生に、国際会議でのプレゼンの仕方について講義をいただきました。

3 第３回

マルセイユ出発の前日に第３回目の勉強会を行い、英語によるプレゼンテーションの最終リハーサルを実施しました。

第２回目の勉強会以降、派遣者６名は各自で英語による発表の特訓を行ってきており、プレゼンテーションが各段に上達していました。

3. 実行委員会主催壮行会

1 開催日

●平成24年３月10日㈯

2 場　所

●財団法人 河川環境管理財団
会議室

3 詳　細

鈴木理事長からの挨拶

小池委員からの激励

世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2011実行委員会が主催で、派遣される子どもたち６名の壮行会を実施しました。壮行会では小池委員から激励の言葉をいただき、最終発表後の交流会では、実行委員の方々とフォローアップ大会の運営スタッフで壮行会に参加できなかった大学生のみなさんより派遣者へのメッセージを代理で伝え、参加したスタッフの方からはエールを送っていただきました。

皆さんは出発を明日に控え、今わくわくしていることと思います。外国人の前で英語で発表するなどということは、これまでにはなかったことでしょう。うまく発表できるか、少し心配している人もいるかもしれませんね。

私が初めて英語で学会講演したのは大学院の修了の時でした。その時は講演内容をすべて英語でノートに書き、ゆっくりと読みました。皆さんは私よりはるかに若い時に素晴らしい経験を得ることになります。

外国人と接するときに最も大事なことは、これは日本人相手でも同じですが、素直な心で誠意をもって対することです。英語を流暢に話す必要は全くありません。

今回が初めての海外の人もいると思います。若い時に海外から日本を見つめなおすことは重要なことです。今回の水フォーラムでの発表ばかりでなく、いろいろなことに興味を持って、外国を見てきてください。そして日本の良いところ、悪いところを客観的に判断し、将来の日本の発展に向けてみなさんの経験を生かしてください。

フランスとは７または８時間の時差があります。また、交通も日本とは逆です。観光地ではスリ等悪い人もいます。それでは、これらに十分に気をつけて行っていらしてください。

後日、土産話が聞けることを楽しみにしています。

実行委員長　北野　大（明治大学教授）

ファシリテーターからのエール

齋藤　詠子さん

新國　宏樹さん

荒川　桃子さん

湯谷　啓明さん

4. 活動レポート（第１日目）

1 マルセイユに到着

成田空港を３月11日の午前に出発し、パリのシャルルドゴール空港で乗り継ぎ約14時間。ようやく「第６回世界水フォーラム」の開催地であるフランス共和国のマルセイユに到着しました。

成田空港にてお見送りの保護者と

シャルルドゴール空港にて通訳者とご対面

派遣者６人中、２名だけが海外が初めてということで、成田空港ではあまり緊張した様子はみられませんでしたが、派遣者の保護者の方に温かく見送られ、マルセイユへの第一歩を踏み出しました。

機内では、派遣団はまとまって座ることができたので、発表の練習等をすることができ、約13時間という長い空の旅をそれぞれ満喫していた様子でした。

到着は現地時間の同日20時。８時間の時差があったため、日本時間では翌日午前４時にあたり、長旅と時差で少し疲労の色が見えましたが、空港内の特設会場で世界水フォーラムの登録手続きを済ませてから、マルセイユ・プロヴァンス国際空港を後にし、宿泊場所へ向かいました。

マルセイユ空港からホテルに向かうタクシーの中で22歳のドライバーの方から2011年３月に発生した東日本大震災（特に福島県の現状）について質問され、世界各国からも関心が高いことを実感しました。

約20分後には市内中心部の宿泊場所に到着し、マルセイユ第一日目を終えました。

プロヴァンス空港内でWWF-６の登録手続き

宿泊場所にて小休憩

5. 活動レポート（第２日目）

1 開会式と表敬訪問

「第６回世界水フォーラム」のプログラムが開幕しました。午前中に行う予定であったレジストレーション（登録手続き）を前夜プロヴァンス空港で済ますことができたので、開会式の会場に一同向かいました。残念ながら本会場には入れませんでしたが、別会場でオープニングセレモニーの映像を拝聴しました。マルセイユ市長ジャン＝クロード・ゴーダン氏やフランスのフランソワ・フィヨン首相らがスピーチされました。またマリの兄妹の「あなたはのどの渇きが何であるかを知っていますか？」というスピーチに胸を打たれました。

午後からはユースセッションに参加し、マリとハイチのユースとディスカッション。マリと日本の水に関する文化について意見交換しました。その後国土交通省の石川審議官を表敬訪問し、国土交通省のお仕事などを質問した子どもたちに、とても優しく対応いただきました。

WWF会場にて

マルセイユ市長のスピーチ

マリの兄妹がスピーチ

ハイチ、マリの参加者（ユース）と

ミスジャパン水の天使と

マルセイユ港街でも
フォーラムののぼり旗

国土交通省の石川審議官を表敬訪問

日本パビリオンの様子

6. 活動レポート（第３日目）

1 下水処理場の見学と水教育セッションに参加

大会二日目は無料プログラムのマルセイユ下水処理場見学です。この下水処理場は民間のSeram社が経営しており、下水処理場とは思えないモニュメントが地下への入口です。地下にある処理場はニオイがキツく鼻を抑えながらも真剣に説明を聞いていました。

その後フォーラム会場に戻り、水に関する世界規模の教育プログラム「プロジェクトWET」の"waterfootprint"でバーチャルウォーターに関するセッションに参加しました。

午後からの韓国水フォーラムのセッションでは藤兼研究第一部長が日本における取り組みや子ども水フォーラム・フォローアップの経緯等を紹介しました。 日本の子どもたちの活動紹介をすると会場から盛大な拍手が起こりました。

モニュメントが地下への入口

マルセイユ市の下水処理場視察

プロジェクトWETインターナショナルのセッションに参加

水教育セッションで藤兼研究第一部長が発表

日本の子どもたちの活動を紹介

プロジェクトWETインターナショナルのブースで
副代表John Etgen氏と名刺交換

7. 活動レポート（第４日目）

1 日本パビリオンで発表

大会三日目には、五つのテーマについて『水問題の解決策』と題して日本パビリオンで発表しました。多くの方々に参加いただき、子どもたちは一テーマにつき10分間英語でプレゼンテーションを行いました。後半にはフランスの子どもたちとエール交換をし、この会議に参加することへの意気込みや自分たちの活動について述べました。日本からは作道奏太さんと松崎理恵さんがフランス語でエールを披露しました。

ミスジャパン「水の天使」から参加者に激励の言葉をいただき、気がついたら会場には凄い数のギャラリーで日本パビリオンが非常に盛り上がりました。

フランスの子どもたちとエール交換

テーマ① 津波等の水に関する災害

テーマ③ 水環境や自然環境の保全・復元・再生

テーマ④ 暮らし、産業において必要な水

テーマ⑤ 水の歴史や文化

テーマ② 安全な川での体験活動

ミスジャパン「水の天使」より激励のエール

2 水と文化・子どもワークショップに参加

日本パビリオンでエール交換したフランスの子どもたちと、総合地球環境学研究所主催の「水と文化・子どもワークショップ」のセッションに参加し、水のオノマトペ※を考え、それを絵で表現しました。切り取って額縁にし、感じた事をタイトルにしました。

※オノマトペ（onomatopee[フランス語]）とは、ものの音や声などをまねた擬声語（ざあざあ、じょきじょきなど）、あるいは状態などをまねた擬態語（てきぱき、きらきらなど）をさすことば

翌日、ワークショップで完成した絵を展示し、大勢の方に見ていただきました。

ワークショップに参加したこどもたち

8. 活動レポート（第５日目）

1 公式セッション“Children solutions!”で発表

第５日目の公式セッションでは、浴衣、道着、法被など日本をアピールする衣装で発表しました。約50人（主催者推定）の参加者との間で熱心なディスカッションが行われ、参加していただいた方々に団扇をプレゼントしました。

参加者から色々な質問やアイデアが寄せられ、時間を超過して質疑応答が続きました。また日本のウチワを感謝をこめてプレゼントしました。

セッションのオーガナイザーMr.GEISSLERの挨拶

子どもたちの活動に質問する参加者

参加者と記念撮影

民族衣装を着て英語でプレゼンテーションする子どもたち

2 High Level Expert Panel on Water and Disasters に参加

午後から、「High Level Expert Panel on Water and Disasters」のセッションに参加しました。

冒頭、皇太子殿下からのビデオメッセージの放映があり、2011年３月11日に発生した東日本大震災における、津波、ならびに水関連災害の報告が、明確に、わかりやすい形で提示されていました。また、皇太子殿下からは、水関連災害が日本にとって切り離すことのできない長年の課題であり、繰り返し、地震とそれに伴う津波や、その他の水関連災害に悩まされ、対策をとり続けてきた歴史を、貴重な史料、また実際の映像、皇太子殿下ご自身が視察された内容を元に全世界に向けプレゼンテーションされていました。

また、議論の中では、いくつかの専門用語も出ていましたが、これも子供たちが自分たちで、調べて内容を理解するなど、新しい学びの場でもあったようでした。

◀大会の公式ニュースレターで紹介されました

▼<High Level Expert Panel on Water and Disastersパネルディスカッションの様子>

▶<High Level Expert Panel on Water and Disastersパネルディスカッションを聞き、メモを取る>

森喜朗元首相と記念撮影

メキシコのブースを見学

9. 活動レポート（第６日目）

1 世界遺産のポン・デュガールとサン・ベネゼ橋視察

６日の午前は、マルセイユ、サン・シャルル駅からTGVでフランス南東部のアヴィニョンに向かい、ポン・デュガール（Pont du Gard）というローマ時代の水道橋遺跡を見学し、古代の技術と水の大切さを学びました。

ポン・デュガールの説明看板

午後からは、サン・ベネゼ橋を見学しました。17世紀の大洪水により川の途中で切れたままとなっていました。『アヴィニョンの橋の上で』は、古いフランス民謡で、歌詞

アヴィニヨンの橋で　踊るよ　踊るよ
アヴィニヨンの橋で　踊るよ　輪になって

のように輪になって踊りたかったが、たくさんの人が手をつないで輪になって踊るには若干狭いようで横二列に踊ってみました。

ガルドン川に架かる世界遺産のポン・デュガール

水の通り道へと続くトンネルで

サン・ベネゼ橋の全景

アヴィニョンの橋で踊るよ　踊るよ♪

2 Facebook「世界水フォーラム＆世界子ども水フォーラム・フォローアップ」グループへの書き込み

ホテルに帰着後に行なったFacebookへの発信では「(筆者註：ポン・デュガール橋を見て）科学の進歩と現在の水道の構造のありがたさというか、素晴らしさを感じました。」「私たちが普段何気なく使っている水が、アヴィニョンの町ではあんなに大きな水道橋（筆者註：ポン・デュガール橋）を作らなければ供給できなかったというのには、とても衝撃を受けました。」といった感想を発信していました。

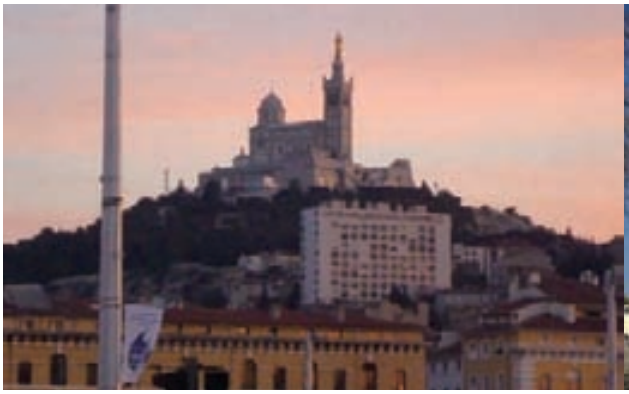
アヴィニョンの街中でランチタイム

ホテルの朝食

本場のブイヤベース

道化師と記念撮影

日本よりちょっぴり早めの桜満開

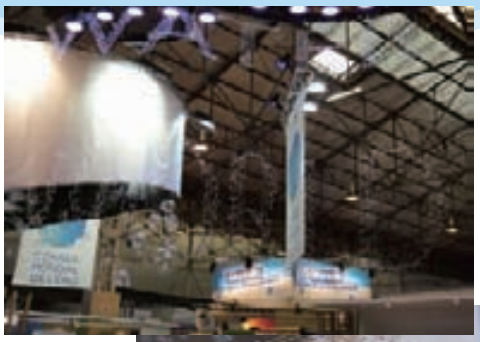


丘の上のノートルダム・ドゥ・ラ・ガルド寺院

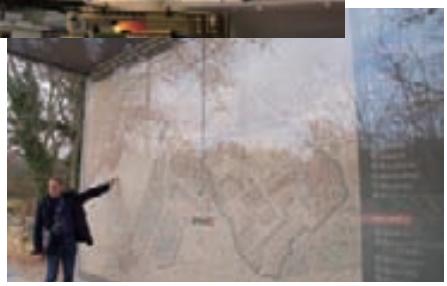
アヴィニョン教皇庁

はみ出しPhoto

マルセイユ駅にて



フランスの
ブース見学



ポン・デュガールを
説明する通訳の
Mr.Laurent SOUMOY

アヴィニョン旧市街を散策する女子三人組

荷物の見張り番

日本語でメッセージ!?

アヴィニョン旧市街を散策する男子三人組

パリのシャルルドゴール空港にて

バスの窓からエッフェル塔

ポン・デュガールをパノラマ撮影

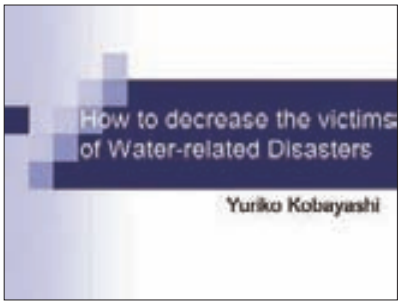
10. 日本の子どもたちの水に関する活動の発表

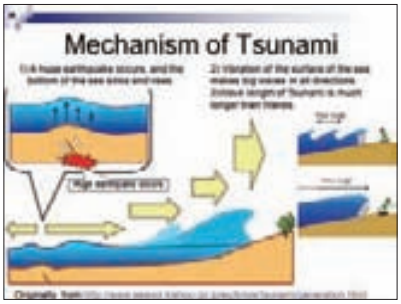
（※は第６回世界水フォーラムでの発表者）

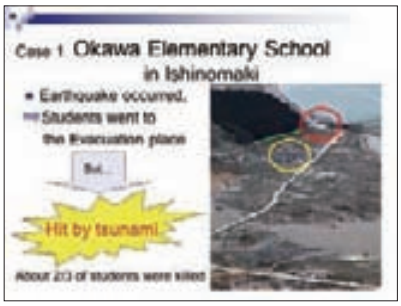
テーマ 1 How to decrease the victims of Water-related Disasters

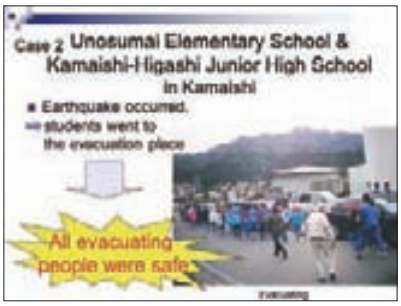
（津波等の水に関する災害）※小林　夕里子

- 水による災害の犠牲者をへらすためには地域がつながって水による災害に備える
- 子ども達の活動によって対策を実行することができる。







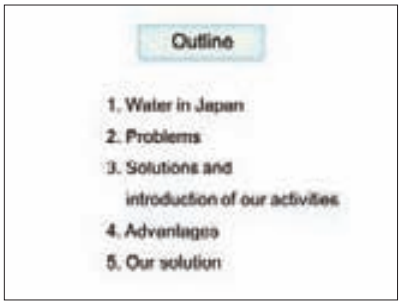


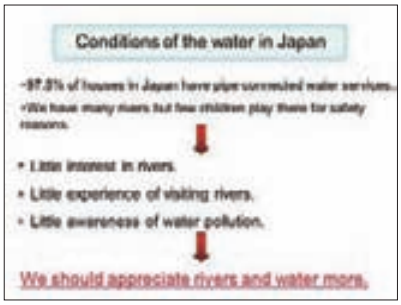
テーマ 2

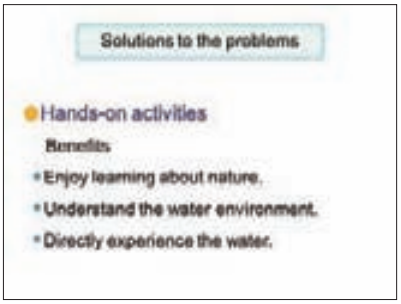
Hands-on activities at the river

（安全な川での体験活動）※田中　美穂

- 自分の地域の川がもっと身近に感じることができる体験活動に、参加すること。
- 子より多くの人に、現在の川の実状を知ってもらい、考えてもらえるようにしたい。
- 体験活動でしか学ぶことのできない発見や経験をし、遊びから水に関心を持って、学びに発展させていきたい。



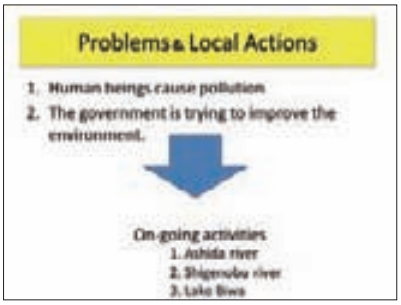




テーマ 3 Living together with aquatic life

（水環境や自然環境の保全・復元・再生）※重政　祐貴

- 生物目線で水環境や自然環境について考える
- 大切なことは生物目線での活動をすること。また活動を継続させることである。

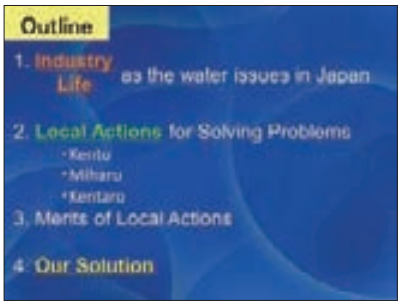


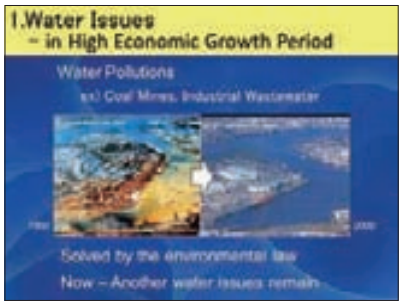
テーマ 4

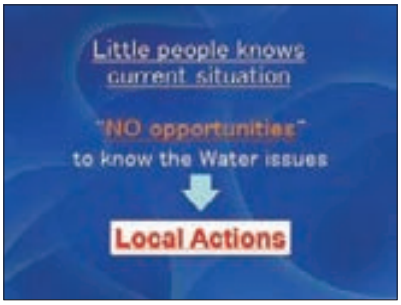
River Connects Us

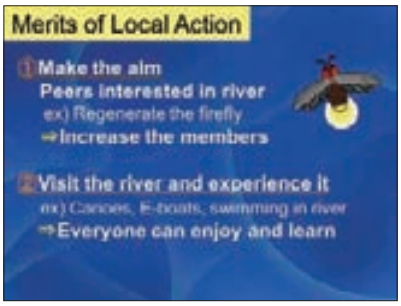
（暮らし、産業において必要な水）※仲野　健太郎

- 川をきっかけに仲間が増える
- みんなを川に引き込む「きっかけ」を作ろう！





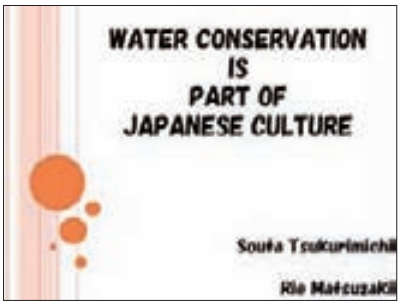


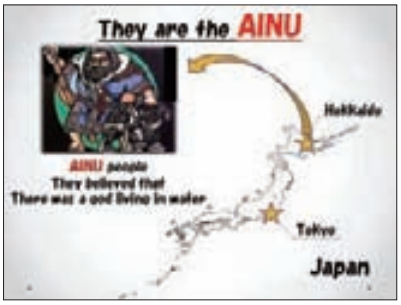


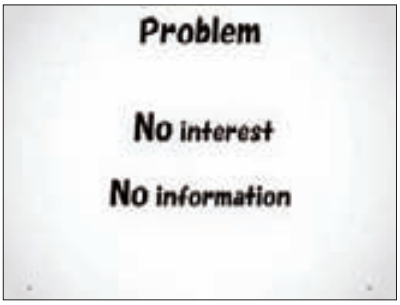
テーマ 5 Water conservation is part of Japanese culture

（水の歴史や文化）※作道　奏太、松崎　理恵

- “水”の文化や活動に興味・関心を持ってもらうための方法を工夫
- 子供のための水の教育を開始し、すべての世代間の交流の機会を確保する







《子どもたちの感想》

（15日皇太子殿下からのビデオメッセージの放映があり、そのビデオ発表をふまえて。）

私はchirdren's solutionで津波などの水に関する災害について発表をしました。その中で、私は中高生の活動として勉強会を開くことを挙げました。多くの人に災害の危険性を伝えることは非常に重要であると思います。

今回のプレゼンテーションでは、歴史から学ぶことが一つの解決策（solution）であることが分かりました。私はチリで起きた津波が日本に到達したことは知っていましたが、そのことを誰かに伝えようとはしませんでした。さらに、その津波は私たちが生まれるずっと前に起こったもので、最近の若者にはあまり知られていないに思えます。

ですから、このように津波の歴史を勉強会で教えることが必要だと感じました。そうすれば、多くの人にもっと深い知識をもってもらうことができます。歴史を教え、津波が起こったときに誰も犠牲がでないような災害の備えができればいいと思います。

ゆりこ（小林　夕里子）

私は、いろいろな方々のお話を聞いている時、観点や視点という言葉がとても印象に残りました。

自分の今できる力をすべて出して、世界の水のために貢献するためには、観点や視点の幅を広げ、違う分野で活躍しているたくさんの方々と協力し合いながら活動をしていかなければならないという意見には、とてもうなずけました。

今までの偏見にとらわれず、マルチの観点で世界の仲間と活動することは、私が水フォーラムに参加するまでのフォローアップ大会や、勉強会でのたくさんの仲間とのディスカッションの経験から、とても大切なことだと賛成します。

私の解決策として、これからもこのような活動を継続し、水フォーラムでの経験を生かしたいと思っています。

ぷっちょ（田中　美穂）

水問題の解決において、またそのほかの問題解決においても“協力”は最も大切なことだと思います。

絆という科学では説明できないことこそ大切なことなのではないかと思います。

また、救援活動をしたくてもできないという現状が少なくないようで大変共感できました。今回の震災においても僕（たち）は東日本へボランティアで行く機会がなくやるせない思いをしていました。そういう現状を打破することも、水害対策、防災に対し重要な手立だと思います。

何より大切なのは行動力と、各国での活動に対する理解だと思います。

しげ（重政　祐貴）

私自身、中学校に入って水に関する活動を始めるまで災害などについても全く知識がなかったし、私の友達もほとんどが全く災害の知識を知りません。だから、小さなうちから目の前に迫っていることについて、真剣に興味を持って考えるために、これからの未来を担っていく子供たちが災害について継続して学び、行動を起こしていける環境を私たちが作っていかなければならないと思います。

けん（仲野　健太郎）

日本の現状を変えるためには、日本はきっかけが必要でした。今回の東日本大震災が、今の不安定な日本を変えるきっかけになることを信じています。日本特有のくせである、口約束は卒業しましょう。日本の文化である“思いやり”で東日本大震災を乗り越えつつ、世界で起こっている問題にも真剣に目を向けましょう。

そして初めて日本は“build a safer and better future for all”を、達成できたことになると思います。

貴重な経験を、ありがとうございました!!　心から感謝しています。

りぃ（松崎　理恵）

私は、水と災害を身近な問題として、災害はいつでも起きるものとして認識し、次の災害が起きた時に、これまでの災害の経験と教訓を活かすことができるように、自分自身で考えなければならないことは何か、世界各国の水問題解決のためには、自分がどの様な行動をしなければならないか、その答えを見つけることを自分の課題とし、考えて行きたいと思います。 次回はユースの一員として参加し、世界の水問題解決のために仲間と共に、水を考えて行きたいです。

つっきー（作道　奏太）

世界子ども水フォーラム・
フォローアップ in 東京2011
実行委員会事務局

㈶河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター内

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル 2F
TEL：03-5847-8303 FAX：03-5847-8309
www.mizube-support-center.org

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C003343

この印刷物は有機溶剤の少ない植物油インキで印刷しております。

平成24年6月発行